

フェアなお金の使い道

東京都・東京学芸大学附属国際中等教育学校 2年 青山 瑞季

私は今、学校の文化祭でフェアトレード商品を販売する企画をしている。フェアトレード商品とは、発展途上国の生産者に対して公正な賃金を支払って出来た商品のことだ。公正な貿易を目指し、生産者に公正な賃金を支払うことで生産者の自立を目指している。その分値段も高い。日本では他の先進国と比べ国内でのシェアや知名度も低い。そこで私は文化祭に来て下さった方に少しでもフェアトレード商品について知ってもらい、買ってもらうことで発展途上国への支援を実際に体験してもらおうと思ったのだ。

フェアトレード商品について調べていくうちに私たちが普段購入したり身につけたり、食べたりしているものがどのように作られているのかを知った。特に、安い商品の場合には労働環境の劣悪な場所で労働者が不当な労働をさせられて作られている。不当な労働をさせられている労働者は貧しく、食べ物も十分に得られなかったり、子供に労働をしいる場合も多い。このような状況は先進国に住む私たちにとっては人ごとに感じられるかもしれないが、そうではない。悪循環を踏んで出来た商品を購入するのは私たちがなのだから。不当な労働を経て出来た商品は、意外と身近にある。チェーン店を展開する大手洋服メーカーや製菓会社の製品もその一部だ。先日、学校で大手洋服メーカーの講演を聞いた。そのメーカーはいらなくなった洋服を集めており、発展途上国の子供たちに寄付をしているらしい。しかし、講演に対して私はとても大きな違和感を感じた。発展途上国の子供たちが洋服さえも満足に着られないのは不当な労働や取引があるからではないのか。そして講演をした大手洋服メーカーも少なからずそういった取引をしているのではないかと。

講演を聞いた後に、自分はどうなのかと思った。その企業は自身の行動を棚に上げて講演をしていた。私も同じように自分のお金の使い方、商品の選び方について考えずにフェアトレード商品を広めようとしているのではないかと

思った。そこで、自分のお金の使い方や買い物について考えてみることにした。私は基本的に親のお金で生活している。だから安い商品を手に取りがちだ。安い商品にはそれなりのメリットがあるのでつい、手に取ってしまう。値段が安く、扱っている店舗も多いため比較的手に入りやすい。洋服や雑貨、生活用品、加工食品など私の身の回りのものの多くが比較的安く、不当な過程を踏んだとも考えられやすい。安く手に入れた商品は壊れやすく、もろく感じられる。消耗品であるならばなんら不便な点はないが、長く使っていかなければならないものは壊れるとそれに代わるものが必要になり、また同じものを買うしかなくなる。安い商品を買うとまた安い商品を買うという循環が生まれ、結果的に安い商品の需要を高め、不当な労働を増やすことにつながりかねないのだ。振りかえってみると私も自分のお金の使い方について考えずに物を買っていた。私が特別、というよりも世の中学生は安くて可愛いと思ったり、カッコいいと感じるものを手に取り、そういった商品に囲まれて生活していると思う。

私たちのような学生にも値段的、見たために満足でき、不当な労働を経て作られた商品をこれ以上増やさない商品やお金の使い道はないものかと思っていたとき、学校で先輩の研究講演会が行われた。フェアトレードについても発表するということだったので、行ってみるとまさに私の問題を解決してくれた。「私たちはまだ子供だから、フェアトレード商品や高くても品質のいい商品を手にするのは難しいけれど、古着やお下がりの洋服を着たりすることならできるよね。古着っていっても最近はオシャレなものもふえてきているし、わざわざお店で商品を買わなくてもアクセサリーなんかはハンドメイドで作っても意外と可愛いものが出来るよ。」

さらに、先輩たちはフェアトレード商品の白いTシャツを買って、カラフルな絞り染めをしていた。値段も安くできるし、可愛いTシャツが出来るそうだ。講演会に行って、工夫をすれば私たち中学生にも発展途上国の人たちをさらに苦しめないお金の使い道があるということがわかった。フェアなお金の使い道をみんなが選べば世界はより良くなって、世界中の人々が幸せになれると思う。

お金の使い道は人それぞれ自由だ。だが、選んだ使い道の先の結末を良くするのも悪くするのも私たち次第なのである。良い方向にもっていけば世界を変えることだってできるかもしれない。だったら、私たち消費者が発展途上国の

人と手をつないでいけるようなお金の使い道を選ぼうと思う。

